

令和6年度相談支援事業者連絡会の報告について

1 相談支援事業者連絡会とは

墨田区障害者基幹相談支援センターが、区内12か所の相談支援事業所と区民の計画作成件数の多い近隣区の相談支援事業所4か所を対象に、相談支援従事者の質の向上と地域の連携体制（相談支援体制）の強化を図る目的として、連絡会を年間6回開催している。

2 活動内容

令和6年度	日時	参加事業所	内容
第1回	6月26日（水） 13時30分～	11事業所	今年度の報酬改正について、ほか伝達事項 基幹相談支援センターの業務について ※アンケート実施
第2回	7月31日（水） 13時30分～	13事業所	区からの伝達事項、事例検討会について ※アンケート実施
第3回	9月30日（月） 15時～	9事業所	初任者説明会（※zoomにて実施）
第4回	12月12日（木） 10時30分～	10事業所	事業所訪問事業（試行）実施報告 情報交換会
第5回	1月30日（木） 13時00分～	12事業所他	講師による野中式事例検討会
第6回	3月6日（木） 時間未定		区からの伝達事項 次年度の実施方法について、情報交換会

※連絡会で扱ってほしい内容等は、アンケートにて聞き取りをおこなった。

意見交換内容（アンケート結果含む）

- ・連絡会で個別の課題を話し合い、個別課題から地域課題を抽出し、自立支援協議会等に報告できる仕組みになるとよいと思う。
- ・今後、事例検討会やケースカンファレンスを行うにあたり、基幹相談支援センターがスーパーバイズに入ることの方針が決まりやすくなると思う。
- ・移動支援や居宅介護について、人手不足の深刻化によりサービス導入に苦労している。ヘルパーの空きが見られるようなシステムがあるよい。
- ・事業者同士のフリートーク的な集まりができると互いの悩みや疑問を解決できるのでそういう場を作ってほしい。
- ・ご本人の高齢化と親の高齢化の問題がある。福祉サービスから介護保険へのスムーズな移行について扱ってほしい。
- ・短期入所先や施設入所（GH）含めた情報が不足していると感じることがあるので、新規の情報などを区から情報提供してほしい。福祉用具などの研修会もあると助かる。

3 事例検討会報告

荒川区障害者基幹相談支援センターの岡部氏を講師に野中式事例検討会を実施した。（野中式とは、ファシリテーターが全体の進行と板書により参加者と会話方式で全体像の把握を行い、グループワークを取り入れて見立ての着眼点を共有し、手立ての検討を行う。その結果地域課題を抽出する方式）

●参加者 49名

障害部門	相談支援専門員等		保健師	区職員
	19名		1名	7名
高齢部門	包括	ケアマネ	訪看	区職員
	7名	10名	2名	3名

●事例提供者 計画相談支援事業所

●ケース概要

50代の男性 進行性難病による身体障害者（医療的ケア有）で週1回の訪問看護を利用し在宅で生活している。80代の父母と同居しており、主な介助者は母、障害福祉サービスの受給はしているが利用はされていない。コミュニケーションは母を介して図れている状況である。

本人の希望：今の生活を続けたい。

家族の希望：現状のまま週1回の訪問看護を利用していきたい。

●話し合った内容

今後の支援の着眼点は→本人と両親の本音を聞き取るための手立ての検討を進める。

- ・キーパーソンの叔父に家族の全体像を聞くなど、家族全体を見る体制の構築
- ・訪問看護師、保健師、医師などのひきこもり対応関係の情報を集め提供する。
- ・タブレットを活用してコミュニケーション手段の確立（メール、チャットなど）
- ・関係機関が協働をし他からもアイデアをもらう、基幹のスーパーバイズが大切

→これらのアイデアから支援者が可能なものを取り入れてみる。徐々にそれぞれの本音を聞ける関係づくりを。

●この事例から抽出した地域の課題

- ・障害者と高齢者の複合的な問題の増加が予想され、相談支援員とケアマネ間の交流をさらに充実させる必要がある。
- ・障害から介護のはざまのバトンタッチの仕組み作り
- ・まだ会えてない（地域の関係者）方たちとも広くつながる必要がある。

4 今後の展望

事例検討会、事業所訪問事業を中心とした相談支援体制強化事業を展開し、高齢部門との連携も定期的に取り組む。